

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名称「東京都立西高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）」
- (2) 事務局の構成 総務部主任＝事務局長、総務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、総務部主任、厚生部主任、DX部主任、1学年主任、2学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、PTA旧役員、学校医、近隣中学校長、町会防災関係者、地域関係機関代表者、地域防災担当、消防署担当、警察署担当、同窓会長 計10名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月6日（木）内部委員10名、協議委員9名
協議委員委嘱、評価委員委嘱、協議会の趣旨、学校経営計画、学習指導・生活指導・進路指導・学年における指導の方針、重点項目などの確認。
 - 第2回 令和6年10月29日（火） 内部委員10名、協議委員6名
本校の現状と課題、協議委員から教育活動に対する設問・意見、学校評価アンケート項目の検討
 - 第3回 令和7年2月4日（火） 内部委員10名、協議委員8名
今年度の教育活動のまとめ、学校評価アンケート結果の報告、学校運営に関する提言、本年度の協議会の反省と次年度へ向けた課題
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年10月29日（火） 内部委員3名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、学校評価アンケート項目の検討
 - 第2回 令和7年2月4日（火） 内部委員3名、協議委員2名
学校評価アンケート集計結果の分析・考察

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校の教育活動への理解」、「学校の実践・対応」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 936人
 - ・12月 保護者全員 936人
 - ・12月 教職員 66人
- (3) 主な評価項目
入学満足度、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、環境美化、家庭との連絡・相談、キャリア教育、防災教育、体罰・暴言、教員のライフ・ワーク・バランス（働き方改革）など。

（４）評価結果の概要 （学校及び校長への意見・提言内容）

① 全体的傾向

今年度は、感染症対策による学校生活への制限が一層緩和され、ほぼコロナ禍以前の状況に戻ったこともあり、生徒の「学校行事への取組」の項目は平成31年度以降最高の割合となり、「入学満足度」も96.4%と昨年度より向上した。また、「自主自律の学校生活」についても、一昨年度生徒が78%と平成31年度以降最も低い割合で、昨年度80.8%であったが、今年度は82.8%に増加した。教職員の87.9%と乖離しており、認識の違いがみてとれる。

学習指導については、全般的に肯定的な回答の割合が高いものの、自由記述欄には教員の教科指導力の格差に対する指摘がみられた。生徒の「学習への取り組み」では、3年生の数値が2年次に比べ13.5%向上し、学習に集中して取り組んでいることがうかがえる。

例年低い「施設設備の満足」については、エアコンの全館改修を背景に昨年度は向上したが、今年度は生徒・保護者ともに数値が下がった。自由記述にはトイレの改修を求める声が根強い。「環境美化への取組」については、依然として低い値だが、3.8%向上した。清掃活動に力を入れるなど具体的な取組みが求められる。

② 生徒

学校行事や部活動への制限がほぼなくなったことにより、「学校行事への取組」91.5%、「部活動への取組」86.5%と肯定的回答の割合が高い。学習指導に関する「教材や教え方の工夫」93.6%、「満足できる授業」90.9%、「質問に適切に回答」98.3%、進路指導に関する「進路情報の提供」91.1%など、学校の取組を高く評価している。3月のアメリカ研修に加え、8月のスタンフォード研修やインドネシア姉妹校交流などの国際交流も従来通り行えるようになり、「在り方・生き方の指導」96.0%や「視野を広げる機会」91.7%の項目も改善された。

③ 保護者

学習指導・進路指導・生活指導・特別活動を含めて、全体的に肯定的回答の割合が高い。「学校行事への取り組み」94.8%、「在り方生き方の指導」94.6%、「規範意識」95.7%、「生徒・保護者への連絡」92.2%、「入学満足度」97.3%と高い評価となっている。学業に加え、行事や部活動が再開し忙しくしている子供の様子をほほえましく見守っている方が多くいらっしゃる事が自由記述からうかがえる。さらに、Classi等で学校の様子を知りたいという声や保護者面談の要望など、学校を通じて子供の様子を知りたいという保護者の声が寄せられた。

④ 教職員

学習指導の面ではロイロノートやTeamsなどICT機器の活用が定着し、課題の回収や添削指導などに活かされている。生活指導の面では、昨年度から継続して、行事を経験していない生徒に対して教員が説明することによって、本校の伝統を継続する取組をおこなった。そのことが、以下の項目が高い値になったことの要因であると考えられる。「教材や教え方の工夫」が100%となった。「学校行事への取り組み」95.4%、「学習への取組」98.5%、「進路情報の提供」95.4%、「適切な生活指導」96.9%となり、学校の取組みへの工夫の結果と考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（１）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

全体的な傾向としては、例年と同様、大部分の設問で肯定的な回答の割合が高いものが多い。「学校行事への取り組み」については、生徒・保護者・教職員の三者ともに90%を超えており、工夫して実施できた事への評価と考えられる。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

① 学習指導について

学習指導に対しては、生徒・保護者・教職員とも肯定的な評価が高い。今後も ICT の有効活用を含め、対面の良さを活かした授業研究を一層進め、さらなる学力向上を目指して、学習指導力の改善に努める必要がある。

② 校内美化について

生徒の美化意識も徐々に向上している。「環境美化への取組」の必要性は、生徒・保護者・教職員とも共通認識されており、今後も厚生部の「校内美化プロジェクト」などを継続実施する必要がある。

③ 広報活動について

令和6年度は回数を増やし、積極的な広報活動を展開した。特に生徒による学校紹介は受検を考えている中学3年生やその保護者に好評であった。学校説明会の参加者が減少したことを受け、再度本校の魅力を精査し、中学3年生やその保護者にわかりやすく発信していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

激動するグローバル社会で活躍できる「大きな器」の育成を目指して、教職員の間で本校に与えられた使命を再確認するとともに、保護者・地域と連携し、学校教育の全般で組織的・計画的に教育活動を推進し、進学指導重点校として期待される成果を継続的に挙げる。

(2) 学習指導

生徒の学習意欲と基礎学力を向上させ、「思考力、判断力、表現力」の充実を目指して、ICTを活用した教材や教授法などを一層工夫し、指導力向上に努める。

(3) 特別活動

本校の校是である「文武二道」の実現を図るとともに、部活動ガイドラインに準拠し、働き方改革の推進の観点から、部活動の在り方について検討を重ね、実践する。

(4) 生活指導

遅刻などの基本的な生活習慣の確立、ヘルメット着用など自転車による交通事故防止、及び校内環境美化を学校全体で推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 5

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそ う思わな い	そう 思わない	分からな い	無回答
4	1	0	0	0	3	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回（0人） 企画調整会議 0回（0人）

8 その他

保護者には従来の質問紙からClassiを利用した回答に変更したが、回収率が課題となった。
来年度はPTA役員の協力も得ながら、保護者会で実施するなど改善を図っていきたい。

	対象者数（人）			回答者数（人）			回答率（％）		
	生 徒	保護者	教職員	生 徒	保護者	教職員	生 徒	保護者	教職員
今年度 全体数	9 3 6	9 3 6	6 6	9 2 6	6 2 7	6 6	9 8 . 9	6 7 . 0	1 0 0 . 0
昨年度 全体数	9 3 6	9 3 6	6 1	9 1 2	5 5 5	5 9	9 7 . 4	5 9 . 3	9 6 . 7